

1. 単元名 「 給食の残飯を減らそう ～食品ロスを減らすために自分たちのできること～ 」

2. 単元目標

・世界や日本の食について食品ロスに着目し、食に携わる人々への聞き取り調査や給食の残飯を調べることを通して、食品ロスを減らす取り組みについて理解できる。

(知識・技能)

・生産者や食に携わる人との関わりを通して、学んだことをまとめ、表現したり、行動に移したりすることができる。

(思考・判断・表現)

・食品ロスに対して関心を持ち、生産者、調理員、栄養士の先生の取り組みを知ること、それらの人の思いや姿に触れ、食を大切にするために自分にできることを考えようとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、本来食べられるのに捨てられてしまう食品である「食品ロス」を教材として取り上げる。日本の食品ロスは、年間約 522 万 t と推定され、一番多いときの約 646 万 t (平成 27 年) から 100 万 t 以上削減されたが、依然として多いのが現状である。これは、飢餓や貧困に苦しむ人々に向けた世界全体の食料援助量である年間約 420 万 t を大きく上回る。食品ロスとして出されるものは、家庭系食品ロス・事業系食品ロスの二つに分類され、家庭、企業で考えて取り組んでいかななくてはならない問題であると考えられる。

そこで今回は、児童にとって身近なものである給食を通して自分たちのできること(残飯をなくすこと)を中心に食品ロスについて考え、学習していく。奈良市の給食は市が食材を発注し、国内で生産されたものを中心に作られている。加えて、奈良市産の米を美味しく食べる日として、白米給食とし、地場産物や郷土料理が提供されている「古都奈良の日」が設定されている。給食の残飯を減らすことで、社会科で学習した自給率をあげることにつながることも触れたり、栄養士、調理員、生産者の思いを聞いたりすることで、より児童が自分事としてとらえられるようにしていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、積極的に発言したり友達と関わりあったりする児童が多く、特に友達が困っていたりすると、その児童のために動いてくれるなどの様子が見られる。一方、コロナウィルスの影響により、行事ごとが少なくなっていることに伴って、特に上級生の活躍や様子を見ることがなかったからか、主体的になにか物事に取り組んでいく意識は乏しいと感じている。全体的に指示待ちなところが多く、用意されたもの、事前に行うことが決まっているものに対してはよくできるが、自分たちで課題を見つけ取り組むという姿勢は低いと考える。来年はいよいよ最高学年となる。段階的に先輩たちの姿を見て学ぶことができなかつた児童のために、自分たちが中心になって行動していく場が求められる。

本学級の児童に給食をどのくらい食べられるかアンケートを取ったところ、自分のおぼんにのせられたものは完食できるが 9 人。おかわりをしてたくさん食べることができると 9 人。残してしまう時があるが 10 人と、完食できない児童がクラスの 3 分の 1 を占めている。残してしまう理由として、「好き嫌いがあ

る。」「量が多いから残してしまうなどがあげられる。」一方で完食できる児童が3分の2を占め、その中のたくさん食べられる児童は、毎日のおかわりをし、残飯を減らそうと呼びかけている児童もいる。クラスとしては、食器や食缶を返しに行く時間が決まっているため、食べられない児童がその時間に間に合わずに残してしまうのが現状である。よく食べられる子は、残してほしくないという思いを持っているが、どうしても食べられない児童への配慮は足りないと思う。だからと言って食べられない児童が努力をしない現状があるのも事実である。

(3) 指導観

1学期から、児童主導でおかわりチケットを採用している。おかわりをした分、チケットをもらうことができ、そのチケットをじゃんけんが必要な人気の給食のメニューが出たときにオークションのお金として活用することができる。もともとは、たくさんおかわりをしている児童が損をしないようにと考えが中心だったが、そこから残飯を減らそうという声を上げる児童も出てきたため、テーマとして取り上げることにした。

本単元の指導に当たっては、児童の主体的な行動につながるようにするために4つのことを行う。

1つ目は、児童が発言したこと、考えたことを学習のスタートにすることである。本学級の児童は、もともと給食の残飯を減らそうと取り組んでいる児童が数人おり、その児童が帰りの会でもほかの児童に伝えるなどの姿が見られた。加えて、おかわりを頑張っている児童が損をしないために児童が話し合い、おかわりチケットを採用するなどの行動も見られた。そこを切り口に数人の児童の思いを学級全体に広げていくことから学習を始め、進めていきたい。

2つ目は、学級での給食の残量を減らす取り組みである。後にも触れるが、学習したことを学校全体に発信することを目標にしていきたい分、自分の学級で残飯を減らしていくことにも取り組まなくてはいけないと考える。それぞれが給食に対して思いを持っている中、食べられる児童・食べられない児童それぞれの気持ちを考え、学級一丸となって残飯を減らす取り組みを進めていく必要があると考える。

3つ目は、栄養士・調理員・生産者のお話を聞くことである。本校には、栄養士が常駐しており、いつも児童のための栄養バランスを考えて、献立を考えてくれている。それをもとに調理員の方々は、朝の7時から給食室でおいしい給食を作ってくれている。そのことは、1年生の時に学習し、既習事項である。今回は、自分たちが調べた食品ロスを減らすために、自分たちの学級で困っていること（なかなか残飯が0になることがなかった）を課題解決のために質問をする。そして多くの残飯が残っている現状を伝えるために、作っていただいている方たちの思いに触れることを目的に行う。担任からではなく、ゲストティチャーからの言葉というのは、より児童の心に響くものであると考える。生産者（JAならけん 大石様）からは、お米を作ることの大変さ、ロスが出ていることへの思いなどを中心に児童のから出た質問にも答えていただく形で進めていきたい。

4つ目は、児童が学んだ食品ロスのことや食品ロスを減らす取り組みを発信する場を設定することである。自分たちが課題解決のために取り組んだことを、全校朝会を通して校内に発信する。その後、残飯がどのくらい減ったのかを見ることが、行動化のゴールとし、これらの活動を通して、これからの日本の食を続けていくために自分たちにできることは何かを考え、これからの行動につなげていきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…給食は、栄養士、調理員、生産者のそれぞれの工夫や努力が関わり合うことで美味しくなっている。自然に出来上がるものではなく、生産するために・作るためにさまざまな取り組みが行われていること。

連携性…食品ロスの課題を自分事としてとらえ、本気で変えるために校内全体に発信することを目標に、

食べること、主に給食を食べることに対して苦手意識を抱えている児童に対して、給食を食べられる児童が、その児童の気持ちを考え、一緒に解決策を模索すること。児童それぞれの思いを把握し、一丸となって取り組むこと。

責任性…私たちは食べ残しを捨てているが、残さずに食べることでごみを減らすことができる。自分が後一口を頑張ることで、ごみが減り、世界の飢餓を少しでも救えること。

・ 本学習で育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力…今まで何も考えずに残してきたり、好き嫌いのためだけに残してきたりした給食に対して、ゲストティチャーから教えてもらったことを生かし、食べ物に対する『ありがたさ』を感じることができるようになる。

進んで参加する態度…自らで課題を見つけ、協働的に学び、解決しようとする姿勢を育む。他人事ではなく、自分が解決する一員であることを実感する。

・ 本学習で変容を促すESDの価値観

世代内の公正…生産者も消費者も1人1人が食品ロスについて考えること。

・ 達成が期待されるSDGs



12 つくる責任つかう責任（持続可能な生産と消費）

4. 単元の評価基準

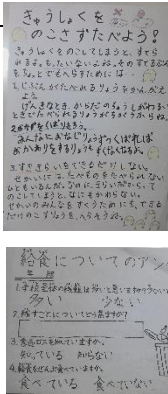


ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 世界、日本、奈良市などの食品ロスの実態を知り、原因や食品ロスによって起こる影響について理解している。</p> <p>② 話を聞いたり、調べたりして獲得して得た知識を、言葉やイラスト、写真などを用いてまとめている。</p>	<p>① 食品ロスの量、給食の残飯などをもとに課題を見出し、自分たちが解決のために何ができるのかを考えている。</p> <p>② 食品ロスについて学んだことをグループで発表したり、ポスターやスライドを活用したりして、表現している。</p> <p>③ 相手意識を持って、分かりやすく伝えるための工夫を考えている。</p>	<p>① 学習したことからこれからの日本、そして世界の食料問題について意欲的に考えようとしている。</p> <p>② 学習したことから自分の食事を残さないように食べる、余分なものは買わない・作らないといったような自分の行動を改善しようとしている。</p> <p>③ 学校、学級の給食の残飯について考え、自分事としてとらえ、主体的に問題の解決に向けて取り組もうとしている。</p>

5. 単元の指導計画

次	主な学習活動	学習の支援	評価・備考
1	<p>○学校、クラスでの給食の残飯の量やそれぞれの給食への思いを考える。</p> <p>・おかわりチケットを活用してから、頑張っておかわりしてくれる人がいるから、減ったとは思うけど、結局残している人もいるから残飯は変わらないと思う。</p> <p>・好き嫌いが多く、残してしまう。</p> <p>・自分がどのくらいの量を食べられるか分からないか</p>	<p>・ロイロノートのアンケート機能を活用する。</p> <p>・自身の給食での様子をふりかえり考えるようにする。</p> <p>・残すことはよいことではないが、児童の実態に合わせ、自分の考えや思いを素直に表現する</p>	

	<p>ら、食べきれないことがある。</p> <p>・いつかみんなが給食をのこさずに残飯が0になるために協力したい。</p> <p>・学校全体の残飯の量が知りたいです。</p>	<p>ように配慮する。</p>	
2	<p>○食品ロスという言葉について知る。</p> <p>家庭科</p> <p>「生活を支えるお金と物」</p> <p>賞味期限、消費期限について学習し、自分とどちらの牛乳を買うのかを考える。</p> <p> おくにあるBの牛乳 賞味期限 2022. 9. 12</p> <p> 手前にあるAの牛乳 賞味期限 2022. 9. 10</p> <p>あなたは、 A か B</p> <p>どちらの牛乳を買いますか？ 理由も考えてみよう！</p> <p>※保護者の方にも聞いてみる。</p>	<p>・どちらの牛乳を買うのかを選ぶときに、その理由まで考えさせる。</p> <p>・児童が調べ学習をする中で「食品ロス」に出会わせるようにする。</p>	<p>ア① (知・技)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
3～5	<p>○食品ロスについて調べる。</p> <p>・食品ロスとは？</p> <p>・食品ロスの現状</p> <p>・食品ロスの原因</p> <p>・食品ロスで起こる問題</p>	<p>・グループで調べるようにし、今起こっている現状について理解するようにする。</p>	<p>ア① (知・技)</p> <p>イ① (思・判・表)</p>
6	<p>○調べたことをまとめ、取り組むべき課題を考える。</p> <p>1、班ごとに調べたことを共有する</p> <p>2、この現状を知ってどう思うか？</p> <p>・少しでも好き嫌いをなくして、残さずしっかり食べる。</p> <p>・食品ロスについて知ってもらう。</p> <p>3、みんなにできることは？</p> <p>給食の残飯を減らすこと</p> <p>4、1次で行ったアンケートを共有</p> <p>・普段頑張って食べている人もいるから、頑張って食べてほしい。</p> <p>・食べられない人にはどうするか？⇒最初の減らしで細かいところまで聞いてあげる。</p> <p>・食べられる人、食べられない人それぞれの意見がある。</p> <p>5、栄養士の先生に聞きたいことを考えよう！</p>	<p>・児童が自分事として考えられるように、考える時間・話し合う時間を確保しながら進めていくようにする。</p> <p>・クラス全体で取り組まないといけないことを強調し、どちらかの意見だけが先行しないように留意する。</p> <p>・児童の口から栄養士の先生に</p>	<p>イ① (思・判・表)</p> <p>ウ①③ (主体的)</p>

	<p>残飯を減らすためにできること。 給食を作るときに食品ロスを出さないための工夫。 残飯があるときの気持ち。 食品ロスを知ってもらう方法。 クラスで残飯をなくすためにできること</p>	<p>話を聞きたい。という意見が出てこない場合、事前の学習の振り返り等から、作ってくれた人の思いなどを引き出すようにする。 (事前に栄養士の先生と打ち合わせをしておく。)</p>	
7	<p>○栄養士の先生に質問を届けよう！ 出た質問をまとめ、クラスから代表2名がアポを取りに行く。</p>	<p>・代表を決める際、立候補者がスピーチをし、任せたいと思う児童を投票で選ぶようにする。</p>	<p>イ① (思・判・表) ウ①③ (主体的)</p>
8	<p>○栄養士の先生のお話を聞こう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①食品ロスについての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスとは・・・ ・食品ロスの問題点、食品ロスがなくなると・・・ ・食品ロスの分類 <p>①学校全体の残飯について 特に学校の中で残飯が多かった日(10/13)の残飯 それぞれ何キロか、何人前か、いくら分捨てられているか</p> <p>②食品ロスを出さない工夫について 給食室で行われている残飯を出さない工夫 →食べやすい大きさに切る。ざるやお鍋のそこについた食材をしっかりと集める。</p> <p>③残飯があるときの気持ち、どんな気持ちで給食を作っているか →調理員さんにインタビューをして答えてもらう(上平さんとのつながりができた)</p> <p>④食品ロスを減らすためにできること(学校) →自分の食べられる量を考える・おかずを配りきる・好き嫌いをしない 食品ロスを減らすためにできること(家庭) →好き嫌いをしない・自分の食べられる量を考える・賞味期限、消費期限を見る、手前取り</p> <p>⑤栄養士の先生の思い</p> </div> <p>・振り返り、お礼のお手紙を記入する。</p>		<p>ウ① (主体的)</p>
9～10	<p>○自分たちができることについて話し合う。 国語科 「よりよい学校生活のために」 テーマ 三碓小学校全体の残飯を減らすためにはどうしたらよいか 個人で考えた後に、グループで話し合う時間を持つ。</p>	<p>・考える内容を明確化するために個人で考える前に、これまでの学習や聞いたお話をふりかえる。 ・それぞれが自分事としてとらえ、行動化に移すために、グル</p>	<p>イ① (思・判・表) ウ①③ (主体的)</p>

	<p>(それぞれの児童が給食を完食できるかどうかを聞き、それに基づいてグループ分けを行う。)</p> <p>グループで話し合った後、クラスでどんなことを行うのかを決定する。</p> <p>①ポスターを貼って呼びかける。 ②スライドを作って放送する。 ③残食についてのアンケートを取る。</p>	<p>ープで話し合う前に、個人で考えさせる時間を確保する。</p> <p>・給食を食べられないと言っている児童が意見しづらくなならないよう配慮する。</p>	
11~13	<p>○クラスで決めたことをそれぞれの担当に分かれて準備をする。</p> <p>①ポスター作成 ②スライドの作成・放送の準備 ③アンケート用紙の準備 回収箱の作成</p>	 <p>5年生からのおねがい</p> <p>1 自分のお皿にあるものは食べきる。 2 よゆうがあればおかわりをしない。 3 すききらいをする。</p> <p>回収箱はこれだよ!!</p> <p>職員室前 プレハフ</p> <p>ぜひ書きはきてね</p>	<p>ア② (知・技) イ②③ (思・判・表)</p>
14	<p>○全校朝会で全校児童に発表する。 ○アンケートを配布する。</p>		<p>イ② (思・判・表)</p>
15	<p>○活動の振り返り アンケートの集計結果 全校朝会があった週の給食の残飯の集計結果 児童それぞれの学習に対しての振り返り</p> <div data-bbox="247 1355 1292 1534" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>全体的には減ったけど、どうしてもお米の残飯の量が減らなかったな。 何か自分たちにできることはないかな? 栄養士の先生・調理員さんと同じように、お米を作っている人のお話を聞いてみたい!</p> </div> <p>米農家さんへの質問を考える</p>		<p>ウ② (主体的)</p>
16	<p>○米農家さんのお話を聞こう。 (JA ならけん 大石様、仲谷様) お米の生産から出荷までの流れ お米の生産にかかる費用、苦労や喜び お米が捨てられてしまう現状をどう思うか</p> <div data-bbox="319 1825 1292 2049">  <p>奈良市立三碓小学校 5年生 学習資料 奈良のお米</p> <p>4. お米づくりの苦労はなし...</p> <p>4. お米づくりの苦労はなし...</p> </div>	<p>・ワークシートを準備し、聞いた話をメモして、のちの感想を書くことにつなげやすくする。</p>	<p>ウ① (主体的)</p>
17	<p>○全体の振り返り</p>		<p>イ③</p>

	<p>これまでの学習を振り返り、自分がこれからできることを発表する。</p>	<p>・学校の給食だけでなく、自分が学校以外でできることも考えさせる。</p>	<p>(思・判・表) ウ①②③ (主体的)</p>
--	--	---	-----------------------------------

○成果と課題

成果

- ・学習を通して、毎日の献立を確認する、残飯確認係を作るなど、給食に関心を持つ児童が多くなった。
- ・給食の残食が0になる日が増え、児童の努力が成果として見られる場面ができた。
- ・食べるのが苦手な児童に対してどのくらい減らせばよいか、しっかり聞き取ってあげるなど食べられない児童に対する配慮ができる児童が多くなった。
- ・話し合い活動を通して、児童が課題を見つけ、解決に向けて取り組み、成果を得ることができた（学校全体の残食の減少）。
- ・ゲストティチャーのお話を聞くことを通して、食材を作ってくれる人・調理をしてくれる人などいろいろな人と関わりながら学習することができた。

課題

- ・今回児童がより身近に感じられる教材として給食を取り上げたが、世界で食品ロスを減らす取り組みに目を向けさせたかった。
- ・「食品ロスを減らすこと」と「食育」を同時に取り組んでしまったこと。給食の残食を0にすることでしか成果を得られなくなったことで、食べられない児童に対して、配慮が行き届いていなかった。
⇒話し合いの段階で、食べられない児童の気持ちを尊重するとなかなか結論が出なかったことがあった。食べられる児童は貢献できるが、そうでない児童はなかなか充実感を持つことができなかつたのではないかな。